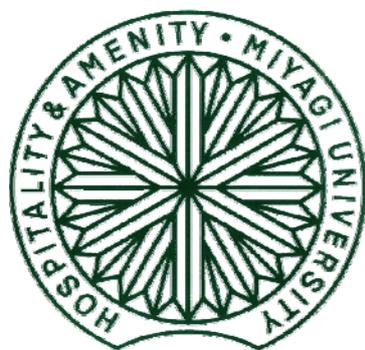


平成22年度宮城大学ベストティーチャー賞

平成22年8月3日



ベストティーチャー選定委員会

平成22年度宮城大学ベストティーチャー賞

平成22年度に宮城大学に新設されたベストティーチャー賞の表彰式が、平成22年8月3日（火）FD全体会の中で開催されました。式の冒頭、ベストティーチャー選定委員会の幹事委員である金子研究担当理事より受賞者の看護学部 原 玲子教授「看護マネジメントⅠ」が発表され、その選考経過と選定理由が説明されました。



【選考経過】

- ①5月31日までに選定委員会には、2学部から計2名の候補者の推薦があった。
- ②この二人の候補者には、候補授業科目のシラバスとご自身で授業の特徴をまとめたPaper及び講義資料を事前に提出していただいた。
- ③6月14日から7月5日までの間に、二人の候補者の科目の授業について、選考委員による授業の視聴、受講学生からのヒアリング、関連分野教員からのヒアリングを行った。
- ④7月12日に、選定委員会を開催し、これらを資料として参考にして、各選考委員の講評をまとめるほか、選考要領の9項目について選考委員全員の評価点を出しあってこれを集計して、平成22年度の宮城大学ベストティーチャー賞を、看護学部・原玲子先生（担当科目「看護マネジメントⅠ」）と決定した。

【選考理由】

原玲子先生の担当科目「看護マネジメントⅠ」は、4年前期の97名受講の必修科目であり、大きな講義であるが、パワーポイントの使い方に非常に工夫した点が見られ、これを中心に完全に計画され演出された授業となっており、学生の関心と興味を引きつけて、高い学習効果を収めて授業目標を達しておられる点が、教育方法として優れていると評価された。さらに具体的には以下の8項目が挙げられた。

- ①公表シラバスのほかに、受講学生には、詳細シラバスが配布され、毎回の授業目標が明示されていること。
- ②毎回の授業は、この授業目標を達成するために、教えるべき内容を厳選し、出欠表配布

回収、挿話などの時間配分も分単位まで、周到に準備され演出された授業になっていること。

③メインの進行は、パワーポイントを使って行われるが、考えさせ配布資料に答えを入れさせて行く「間」の取り方、モーションやアニメーションの駆使など、選考委員の一人が「パワーポイント手法の1つの極致」と評したようなパワーポイントの使用法になっていること。パワーポイント授業の弱点を補い、一方通行の授業にはなっていないこと。

④毎回の出欠カードが、授業の豆テストや授業感想記入になっていて、そこでも一方通行にならないで、学生の理解を確かめながら進む工夫をしていること。

⑤15回の授業、3回の課題レポートとグループワーク、発表という時間外学習を伴う参加型授業も取り入れていること。

⑥受講学生のヒアリングでも、異口同音に興味をもてる、よくわかると満足度が高い授業であること。また、授業目標となっているポイントが最初、途中、最後（豆テスト）と3回くらい念押しされており、授業内容の残留率は高いと推測されること。

⑦「看護マネジメント概論」は同じ原先生の担当ですが、「看護マネジメントⅡ」担当教員等分野教員からは、看護実習や他の科目との授業連携が計られているとの説明があったこと。

⑧選考委員の間には、原先生が教育内容を適切に厳選した教育方法について、初学学生向けに徹底した工夫を行えるのは、原先生が看護界でベストセラーになっている社会人向けの「看護師長・主任のための成果のみえる病棟目標の立て方：看護管理実践ガイド」（日本看護協会出版会、2010）の著者であり、経験と知識の豊かな看護管理の専門家であるから出来ることであるという評価もあったこと。

続いて馬渡理事長より、原 玲子教授に表彰状と目録が授与されました。



そして最後に、原 玲子教授による模擬授業が行われました。

この中で、実際に授業で使用した書き込み式PPT資料やオリジナルの出席カード、詳細シラバスが参加者に配布され、スクリーンではパワーポイントを使いながら、普段心がけていることや注意していることなどを参加している先生方にご説明されました。



画面ではこれ以上ない程のアニメーションPPTが展開され、授業を聞いている学生を飽きさせない工夫が随所に織り込まれていました。

次年度のベストティーチャー賞の選定対象は、平成 22 年度後期科目と平成 23 年度前期科目となること金子研究担当理事より説明され、平成 22 年度宮城大学ベストティーチャー賞表彰式は無事終了しました。